

市長賞

合はす手の火照りしままや原爆忌

荻野 加壽子

【評】 今年のノーベル平和賞は、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）が受賞しました。世界各地で大義なき戦争が繰り返され、核兵器の使用をちらつかせる国まで現れる始末です。平和で安全な世界の実現は、人類共通の願いです。唯一の被爆国として、我が国は核兵器使用の惨禍を繰り返してはならないと訴えなければなりません。「合はす手の火照り」が核兵器の消えるのを願う。この句に込められた平和への願いは尊いものです。「火照りしまま」の措辞が読み手の琴線に触れるメッセージ性の高い上質な句に仕上がりました。